

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和3年度 岐阜県立坂下高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和3年6月8日(火) 13:00～15:00
- 3 開催場所 坂下高等学校 リハビリ実習室
- 4 参加者

| | | | |
|------|--------|-------------------------------|---------------|
| 会長 | 氷室 茂 | 本校活性化協議会会長 | |
| 副会長 | 吉村 俊廣 | やさか観光協会会長 | |
| 委員 | 加藤 文明 | 坂下まちづくり協議会会長 | |
| | 村田 純一 | 坂下公民館長 | |
| | 尾石 光正 | 坂下中学校長 | |
| | 竹入 康治 | 坂下小学校長 | |
| | 山内 尚子 | 同窓会会長 | |
| | 嶋倉 陽子 | 中津川市社会福祉協議会地域福祉課長 | |
| | 桂川 容子 | 一般社会法人ロカテナ会員 (charm mates 代表) | |
| | 吉村千恵子 | 保護者代表 | |
| | オブザーバー | 森 益基 | 岐阜県議会議員 (御欠席) |
| | | 成瀬 博明 | 中津川商工会議所 専務理事 |
| | 岩久 義和 | 中津川市教育長 | |
| | 伊藤 恵之 | 中津川市定住推進部長 (代理人出席) | |
| 学校職員 | 中村 浩一 | 校長 | |
| | 田並 千穂 | 教頭 | |
| | 渡辺 英之 | 事務長 | |
| | 板津 裕也 | 教務主任 | |
| | 中田 和寿 | 生徒指導部長 | |
| | 林 裕子 | 進路指導部長 | |
| | 林 尚志 | 地域連携担当 | |

5 会議の概要 (協議事項)

- (1) 学校運営基本方針の説明【学校長、担当者による説明】
- (2) 新学科について【学校長による説明】
- (3) 学校運営全般に関する意見交換

意見1： この数年の学校運営協議会を経て、改善されたこと、また他校の取組で取り入れるとよい事例を教えてください。少人数でどのくらい生徒が伸びるのかを分析し、それをうまくPRする方法も考えてもらいたい。

意見2： 広報活動等、地域でできることには積極的に協力していきたい。

意見3： 自己肯定感を育むために、地域の素材を教材とすることは重要。「深い学び」と併せ、地域を支えていく人材を育成することに繋がる。

- 意見4：朝、小学校付近で坂下高校生をあまり見かけないということは、地元の中学生在が坂下高校へ進学しないということだろうか。以前、坂下中学校に勤務した時、坂下高校は卒業まできちんと育ててくれる学校だという印象を持った。介護福祉士国家試験の合格率が高いこともすばらしい。地元に着愛を持っった生徒を育ててほしい。
- 意見5：昨年の卒業発表会を観たとき、自己肯定感が育まれていることを感じた。コロナ禍で難しいとは思うが、できる範囲で地元の人にもぜひ見せてほしい。
- 意見6：一昨年、中学生を対象とした「ボランティア養成講座」で、坂下高校福祉科の生徒が講師として活躍してくれた。社会福祉協議会では、介護だけでなく地域づくりも行っているので、学校とコラボした取組ができるとよい。
- 意見7：私は地域の小さなボランティア活動を行っているが、ボランティアは活動して「楽しい」と思えることが大切。「探究」の活動で地元のトマト農家と結びつけてトマト栽培を行っている活動も興味深い。発信の方法として、FacebookよりもInstagramの方が多くの人に観てもらえるのではないか。魅力ある写真に文章を付けるとよい。生徒たちが夢をもつことも大切にしてほしい。
- 意見8：福祉の現場はますます男性が必要になってくる。男子生徒にも大勢福祉科に入ってほしい。
- 意見9：入学生数が減少していることが心配である。DVDを作成して中学校に配ってはどうか。
- 意見10：福祉科で県外募集を行っているが、寮や下宿はあるのか。親の立場で考えると、まずは住むところの確保が心配である。

(4) オブザーバーからの提言

- 意見1：学校の存続を考えるなら、定員割れの原因を追究し、対策を真剣に議論することが必要である。福祉関係に人が集まらないのは、給与面での待遇の悪さが考えられる。また、職場開拓や理解のために、教員がもっと企業に出向いて現状把握をすべきである。企業も世の中の流れを汲んでどんどん変化している。福祉科の生徒がアイデアを出し、製品開発等に携われるとよい。
- 意見2：坂下高校は中学校に対してアピール不足だと感じる。この数年、恵那地区では校長先生が中学校へ出向いてPRするトップセールスが増えているし、中学校側もそれでいろいろなことを相談しやすい。中学校の教員はほとんどが普通科の卒業生であるため、専門高校についての知識が乏しい。また、学科改編等でカリキュラムが頻繁に変わるので、中学校の教員は進路指導において困難さを感じている。その部分を高校職員による中学校訪問で埋めるとよい。また、在校生から後輩の中学生、あるいは保護者間での口コミの影響は大きいので、うまく利用できるとよい。
- 意見3：域学連携、地元や大学との連携を通して、中津川市への貢献や就職に繋げられるとよい。今年も域学連携の発表会はリモートになるかもしれないが、参加してもらえるとよい。
- 意見4：とにかく地域にアピールしてもらいたい。発表会も学校で行い、小中学校や地域の方々に来てもらえるようにするとよい。現在グラウンドの開放をしているが、体育館なども開放をして、坂下高校に来てもらう機会を増やしてはどうか。将来の地域の担い手である生徒を育ててほしい。福祉科の修学資金貸付制度のさらなる利用や、下宿支援金制度も検討してはどうか。

6 会議のまとめ

- (1) 「学校運営基本方針」について、委員による承認を得られた。
- (2) 第1回の学校運営協議会では、坂下高校の「個々の生徒に寄り添った丁寧な教育」について高い評価を得られた。一方で「地域との連携」「PRの工夫」という2つの課題が特に大きく挙げられた。具体的な対策を打ち出し、次回の会議で共有できるようにするとともに、スクール・ポリシー策定に向けた準備を計画的に進めていきたい。